－高校生が掘った羽咋－

「ハマケン」と羽高地歴部の発掘記

企画展　令和４年（2022）

9/1（木）～10/10（月）

9:00～17:00（入館は 16:30 まで）

写真：柳田シャコデ廃寺の発掘調査（S46）

会期中無休
入館無料

はくいしれきしみんぞくしりょうかん　Hakui City Museum of History and Folklore

羽咋市歴史民俗資料館 れきみん

〒925-0027 石川県羽咋市鶴多町鶴多田38-1

TEL：0767 22 5998　はくいし　れきみん

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期の変更や臨時休館などの措置を取る場合があります。最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。

Hakui High School 100th
羽ばたく未来へ

石川県立羽咋高等学校
創立 100 周年記念事業
後援：羽咋高校同窓会

濱岡賢太郎（はまおかけんたろう） 先生（ハマケン）

濱岡賢太郎先生は、大正 11 年、現在の中能登町高畠に生まれました。大学では東洋史を専攻し歴史学を修めますが、学徒動員で海軍予備学校に入隊します。終戦後は郷里に戻って高校教員となり、三番目の赴任校となった羽咋高校で、地域の地理・歴史を研究する「地歴部（地歴班）」の初代顧問となります。自らも郷土史・考古学研究を行い、多くの論文・調査報告を執筆し、のちに石川県立埋蔵文化財センター所長、石川考古学研究会会長を務めるなど、県内の調査研究と文化財保護をけん引し、大きな業績をのこしました。

大らかでいて緻密な人柄から、研究仲間からも信頼が厚く、生徒たちからも「ハマケン」と呼ばれ親しまれました。教え子には、学校教員や行政の文化財保護担当となり、地域研究の担い手となっていった生徒もいます。教育者・研究者であり、行政の文化財保護にも目を配り、地域の文化財を守りながら、後進を育て、「能登学」を切り開いていった第一人者です。

大正 11 年 (1922)	鹿島郡高畠に生まれる
昭和 3 年 (1928)	御祖尋常高等小学校卒業
昭和 9 年 (1934)	羽咋中学校入学
昭和 14 年 (1939)	広島高等師範学校入学
昭和 17 年 (1942)	広島文理科大学史学科入学
昭和 21 年 (1946)	七尾高等女学校勤務
昭和 23 年 (1948)	七尾高等学校勤務
昭和 24 年 (1949)	七尾高等学校教諭
昭和 26 年 (1951)	羽咋高等学校教諭
昭和 28 年 (1953)	石川考古学研究会会員
昭和 34 年 (1959)	鹿島町文化財保護専門委員
昭和 35 年 (1960)	七尾農業高等学校教諭
昭和 41 年 (1966)	七尾城北高等学校教頭
昭和 45 年 (1970)	羽咋高等学校教頭
昭和 47 年 (1972)	町野高等学校校長
昭和 48 年 (1973)	七尾高等学校校長
昭和 57 年 (1982)	県立埋蔵文化財センター所長
昭和 60 年 (1985)	石川考古学研究会副会長
昭和 63 年 (1988)	石川県文化財保護審議会委員
平成 元 年 (1989)	石川考古学研究会会長
平成 3 年 (1991)	石川県文化功労章
平成 10 年 (1998)	逝去（76 才）

高校生が掘った「羽咋の歴史」

通算 9 年間の羽咋高校在任中、濱岡先生は地歴部の部員たちを引き連れ、地元羽咋をはじめ能登各地の遺跡調査にでかけました。部員たちは、夏休みの期間に発掘合宿を計画し、吉崎・次場遺跡、柴垣円山 1 号墳、柳田山伏山古墳、柳田シャコデ廃寺など、羽咋を代表する重要遺跡の発掘調査に参加しています。その成果は、昭和 48 年（1973）刊行の『羽咋市史 原始古代編』に収録されており、羽咋の発掘調査の初期の記録資料として非常に重要な資料となっています。

また、彼らは調査報告や研究レポートを掲載した『回報』という研究誌も編集・発刊していました。学園祭（羽高祭）では、出土品を展示して活動報告をしたり、濱岡先生の引率のもと県外の遺跡や文化財を見学する研修旅行も行っていました。「ハマケンと地歴部」がのこした調査記録と出土品は、当時の高校生らしい文化財保護活動が行われたことを示す貴重な資料でもあります。今では考えられないことですが、高校生たちが、地域研究や遺跡保護の最前線に立っていたのです。

濱岡先生と地歴部員（研修旅行の集合写真）

濱岡先生と地歴部員（石動山の測量調査）

柴垣円山 1 号墳の石室の発掘調査

柳田シャコデ廃寺の発掘調査

お寺で合宿し、発掘現場に出発する部員たち

れきみん
羽咋市歴史民俗資料館

Hakui High School 100th Since 1921
時をつなぐ悠久の音 羽ばたく未来へ
石川県立羽咋高等学校
創立 100 周年記念事業
後援：羽咋高校同窓会